

13. 人権教育

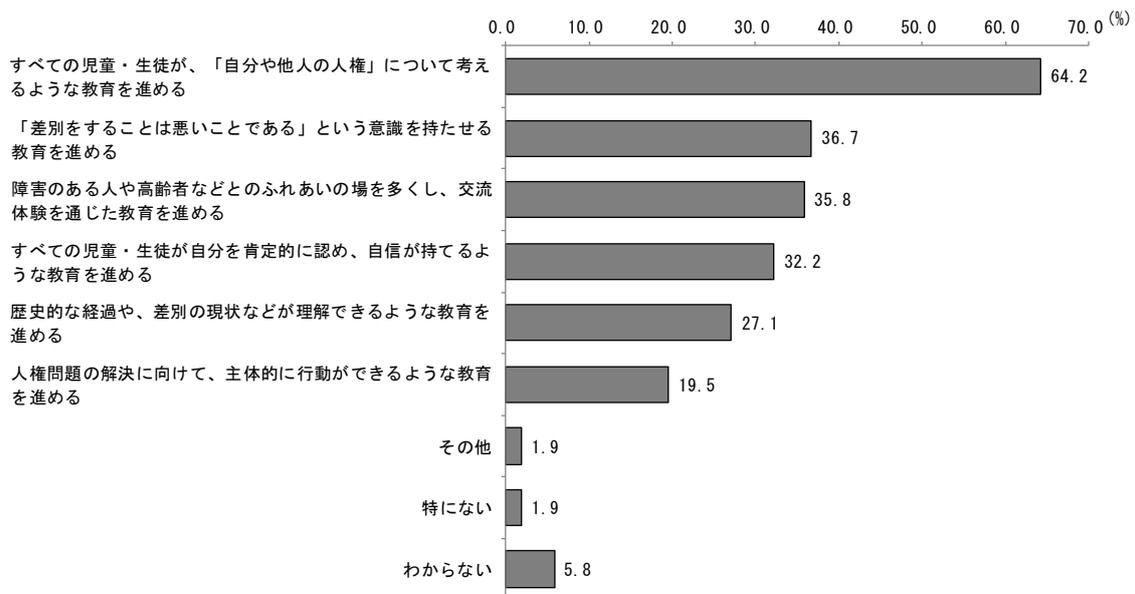
人権を尊重する心や態度を育むための教育

問 12-2 あなたは、人権を尊重する心や態度を育むためには、学校においてどのような教育を行ったらいと思いますか。

【〇は3つまで】

1. すべての児童・生徒が、「自分や他人の人権」について考えるような教育を進める
2. すべての児童・生徒が自分を肯定的に認め、自信が持てるような教育を進める
3. 「差別をすることは悪いことである」という意識を持たせる教育を進める
4. 歴史的な経過や、差別の現状などが理解できるような教育を進める
5. 障害のある人や高齢者などとのふれあいの場を多くし、交流体験を通じた教育を進める
6. 人権問題の解決に向けて、主体的に行動ができるような教育を進める
7. その他（具体的に ）
8. 特にない
9. わからない

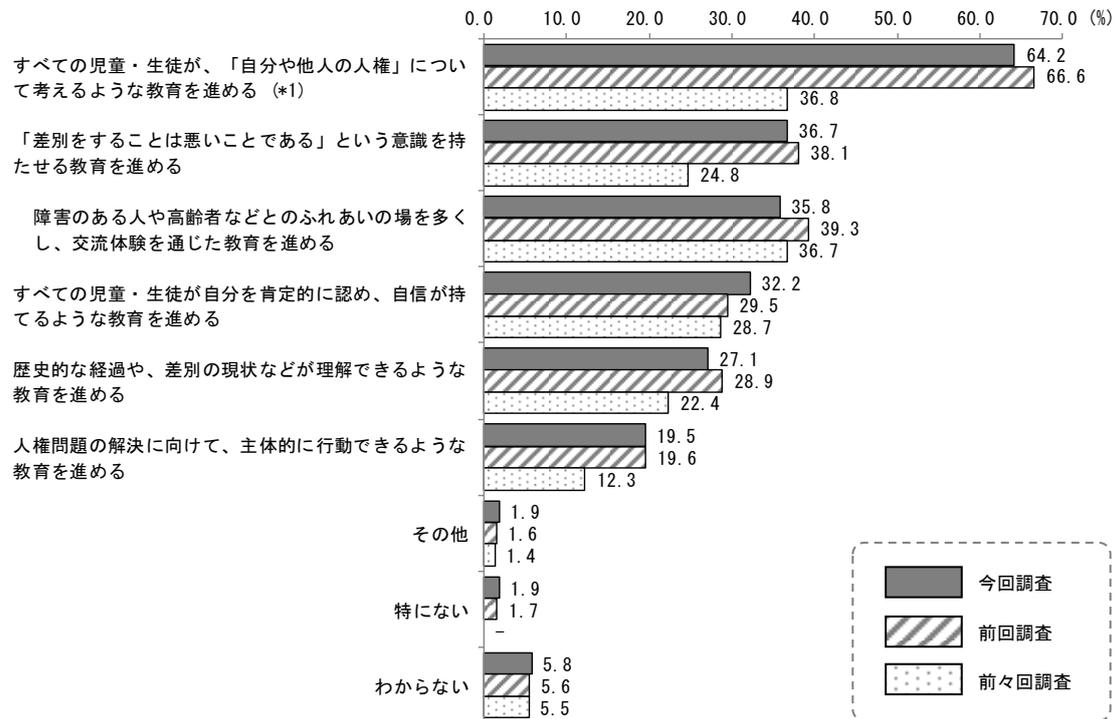
図 13-1 人権を尊重する心や態度を育むための教育（％）



学校でどのような人権教育を行ったらいかについては、「すべての児童・生徒が、『自分や他人の人権』について考えるような教育を進める」の割合が 64.2%で最も高く、『「差別をすることは悪いことである」という意識を持たせる教育を進める」が 36.7%、「障害のある人や高齢者などとのふれあいの場を多くし、交流体験を通じた教育を進める」が 35.8%となっている。

「その他」の記述としては、「人権問題の解決に向けて行動している人たちの事例に触れる機会」「礼儀、思いやりの精神を教育」「障害、高齢者など多くの人との関わりを持ち、個々で全く違っていること、それで良いことを理解させる教育」「教員も含めた教育」などがあつた。

図 13-2 人権を尊重する心や態度を育むための教育 (%) [過去調査との比較]



*1 「すべての児童・生徒が、『自分や他人の人権』について考えるような教育を進める」は、前々回調査「すべての児童・生徒が、『自分の人権』について考えるような教育を進める」との比較。

* 前々回調査の回答条件は【2つまで○】。

前回、前々回調査と比較すると、「すべての児童・生徒が自分を肯定的に認め、自信が持てるような教育を進める」の割合は増加してきている。

また、前回調査より、「すべての児童・生徒が、『自分や他人の人権』について考えるような教育を進める」や「『差別をすることは悪いことである』という意識を持たせる教育を進める」の割合は減少している。

表 13-3 人権を尊重する心や態度を育むための教育【性別】 (%)

	男性			女性		
	今回調査	前回調査	前々回調査	今回調査	前回調査	前々回調査
すべての児童・生徒が、「自分や他人の人権」について考えるような教育を進める	64.4	67.7	40.3	64.3	67.5	34.4
「差別をすることは悪いことである」という意識を持たせる教育を進める	38.4	38.8	26.6	35.4	38.1	23.3
障害のある人や高齢者などとのふれあいの場を多くし、交流体験を通じた教育を進める	29.0	36.9	33.1	41.5	42.3	39.7
すべての児童・生徒が自分を肯定的に認め、自信が持てるような教育を進める	27.2	26.8	25.1	36.4	32.4	31.7
歴史的な経過や、差別の現状などが理解できるような教育を進める	29.6	28.9	25.8	25.3	29.8	19.8
人権問題の解決に向けて、主体的に行動ができるような教育を進める	21.0	22.1	14.6	18.3	18.4	10.5
その他	2.8	2.2	2.0	1.2	1.1	0.9
特になし	2.4	2.2	-	1.3	1.2	-
わからない	6.8	5.8	4.3	4.9	5.6	6.4

性別で見ると、男女ともに「すべての児童・生徒が、『自分や他人の人権』について考えるような教育を進める」の割合が最も高くなっている。また、「障害のある人や高齢者などとのふれあいの場を多くし、交流体験を通じた教育を進める」や「すべての児童・生徒が自分を肯定的に認め、自信が持てるような教育を進める」では女性の割合が高く、『差別をすることは悪いことである』という意識を持たせる教育を進める」や「歴史的な経過や、差別の現状などが理解できるような教育を進める」などでは男性の割合が高くなっている。

前回、前々回調査と比較すると、「すべての児童・生徒が自分を肯定的に認め、自信が持てるような教育を進める」の割合は男女ともに増加してきている。

表 13-4 人権を尊重する心や態度を育むための教育【年齢別】 (%)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
すべての児童・生徒が、「自分や他人の人権」について考えるような教育を進める	52.9	60.0	63.9	63.2	66.5	66.2	63.6
「差別をすることは悪いことである」という意識を持たせる教育を進める	64.7	36.5	24.3	33.3	39.1	36.6	41.4
障害のある人や高齢者などとのふれあいの場を多くし、交流体験を通じた教育を進める	0.0	35.7	42.0	42.5	38.1	38.3	27.0
すべての児童・生徒が自分を肯定的に認め、自信が持てるような教育を進める	29.4	45.2	36.7	34.9	31.3	32.1	26.0
歴史的な経過や、差別の現状などが理解できるような教育を進める	23.5	32.2	31.4	26.4	31.0	29.3	19.9
人権問題の解決に向けて、主体的に行動ができるような教育を進める	23.5	18.3	20.7	18.0	21.4	20.7	17.7
その他	0.0	3.5	1.8	2.3	3.9	1.7	0.3
特になし	0.0	0.0	3.0	1.1	1.4	2.0	2.8
わからない	11.8	5.2	4.1	6.5	1.8	6.1	8.3

年齢別でみると、10歳代では『差別をすることは悪いことである』という意識を持たせる教育を進める」が、そのほかの年齢層では「すべての児童・生徒が、『自分や他人の人権』について考えるような教育を進める」の割合が最も高くなっている。

また、10歳代の「すべての児童・生徒が、『自分や他人の人権』について考えるような教育を進める」や20歳代の「すべての児童・生徒が自分を肯定的に認め、自信が持てるような教育を進める」が高い割合となっている。

表 13-5 人権を尊重する心や態度を育むための教育【職業別】 (%)

	農 林 漁 業	サ ー 工 ビ ス 業	勤 め	職 員 、 医 療 関 係 者 及 び 公 務 員	教 育 ・ 福 祉 及 び	そ の 他 有 職	自 由 業 、 家 事 専 業	生 徒 ・ 学 生	無 職
すべての児童・生徒が、「自分や他人の人権」について考えるような教育を進める	66.1	63.0	63.4	68.7	64.1	63.1	62.5	63.2	
「差別をすることは悪いことである」という意識を持たせる教育を進める	38.5	30.7	34.2	30.1	42.2	40.8	50.0	40.9	
障害のある人や高齢者などとのふれあいの場を多くし、交流体験を通じた教育を進める	22.9	38.6	37.0	48.6	40.6	39.7	20.0	28.5	
すべての児童・生徒が自分を肯定的に認め、自信が持てるような教育を進める	25.7	29.9	31.4	43.2	40.6	34.6	37.5	25.7	
歴史的な経過や、差別の現状などが理解できるような教育を進める	19.3	32.3	31.8	28.2	28.1	27.9	25.0	22.1	
人権問題の解決に向けて、主体的に行動ができるような教育を進める	23.9	20.5	18.6	21.2	14.1	17.9	20.0	19.3	
その他	3.7	3.1	1.7	2.7	1.6	2.2	2.5	0.8	
特になし	5.5	1.6	2.1	0.4	1.6	0.6	0.0	2.6	
わからない	5.5	6.3	5.2	2.3	1.6	5.6	5.0	9.3	

職業別でみると、全ての職業で「すべての児童・生徒が、『自分や他人の人権』について考えるような教育を進める」の割合が最も高くなっている。

また、『教育・福祉・医療関係者及び職員、公務員』の「障害のある人や高齢者などとのふれあいの場を多くし、交流体験を通じた教育を進める」や『生徒・学生』の『差別をすることは悪いことである』という意識を持たせる教育を進める」が高い割合となっている。